



# いしわら

7月号

令和4年6月30日

調布市立石原小学校

校長 江原 幸一

<http://chofu-schools.jp/isiwara-sho/>

## 体験を通して学ぶこと

副校長 五十野 新

梅雨空の続くはっきりとしない日が続いておりますが、保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、5月末に実施した運動会後のアンケートでは、多数の方にご協力いただき感謝いたします。ご提出いただいたアンケートを拝見いたしました。「新型コロナウイルス感染症予防を図った上で子どもたちのがんばっている様子が観覧できてよかった」など、評価していただいたコメントが多くあり、教職員の励みとなりました。一方で、改善のための貴重なご意見をいただきました。こちらも全教職員で共通理解を図り、来年度の運動会に生かしてまいります。

さて、本校では学校経営方針にある「豊かな心の醸成」という指針のもと、様々な外部人材を活用した授業を行っています。3年生では、都立調布特別支援学校との交流、4年生ではブラインドサッカー体験を行いました。どちらの活動もノーマライゼーション（誰もが幸せに生きる権利があるということ）の理解と啓発のために本校が重点的に取り組んでいるものです。

都立調布特別支援学校との1回目の交流では、特別支援学校の先生が石原小学校に来てタブレット端末を使い、学校の様子や子どもたちの生活の様子を映像で紹介しました。本校の子どもたちは真剣な眼差しでビデオを視聴していました。6月の末には、特別支援学校のお子さんと直接会い、2回目の交流を計画しております。

また、4年生のブラインドサッカー体験では、実際に試合に出ている現役の選手にご指導をしていただきました。ブラインドサッカーを終えて子どもたちは、次のような感想を述べていました。

- ・目隠しをしてボールを蹴ることは簡単だと思いましたが、結構難しかったです。
- ・目の見えないサッカーはこわかったけどいい体験になりました。
- ・ボールを蹴る人に分かりやすく指示を出すことが難しいことが分かりました。



このような体験活動に加えて、文部科学省が推進するGIGAスクール構想のもと、調布市では児童用一人一台モバイル端末が導入され、体験活動の代わりとして大きな役割を果たしました。ICTの活用はこれからの時代を生きるために必要なツールであり、今までにない新しい形での学びができます。しかし、子どもたちの感想にもあるように、体験活動でしか気付けない学びもあるのです。

これからも、新型コロナウイルス感染症の対策を図りながら、豊かな体験活動を通して、子どもたちの情操を育ててまいります。引き続き本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしく願いたします。